

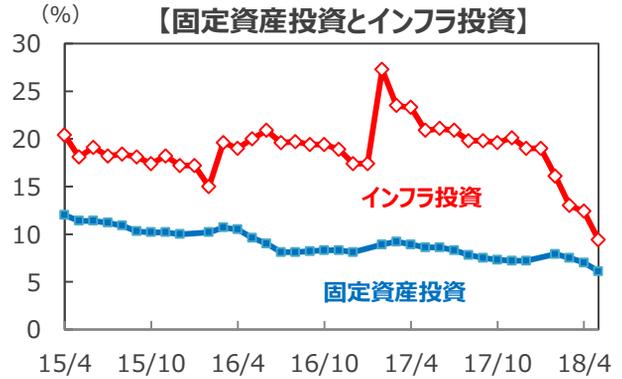
今日のトピック 最近の指標から見る中国経済（2018年6月）

景気の減速ペースは緩やかなものに

ポイント1 固定資産投資は減速 市場予想を下回る

- 中国国家统计局は14日、主要経済指標を発表しました。1～5月の固定資産投資は前年同期比+6.1%と市場予想（ブルームバーグ集計、同+7.0%）を下回り、1～4月（同+7.0%）から伸び率が縮小しました。
- 内訳をみると、インフラ投資が同+9.4%と、1～4月（同+12.4%）から減速し、2桁を割り込みました。地方政府の債務抑制に伴いインフラ投資の伸びが鈍化したとみられます。

【固定資産投資とインフラ投資】

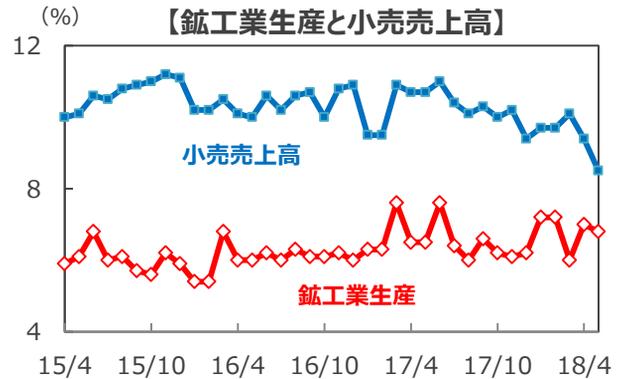


(注) データは2015年4月～2018年5月、年初来累計の前年同期比。(年/月)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 鉱工業生産も伸び鈍化 小売売上高も減速

- 5月の鉱工業生産は前年同月比+6.8%と市場予想（同+7.0%）を下回り、4月（同+7.0%）から伸び率がやや縮小しました。上述のインフラ投資抑制の影響などが現れましたが、産業AI機器などのIT関連の生産は高水準の伸びを維持しました。
- 5月の小売売上高は前年同月比+8.5%と市場予想（同+9.6%）を下回り、4月（同+9.4%）から減速しました。

【鉱工業生産と小売売上高】



(注) データは2015年4月～2018年5月、前年同月比。(年/月)
1、2月は2月の年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気の減速ペースは緩やかなものに

- 以上の通り、5月の主要経済指標は、市場予想を下回りました。中国政府が進める供給サイドの構造改革や金融システムリスク抑制の影響とみられます。ただし、5月の小売売上高は、祝日日数の関係で下振れた模様で、6月は上振れる見込みです。また、7月以降は輸入関税引き下げを通じて上向くとみられます。
- 加えて、政府の「経済の質重視」の方針の下で、ITセクターの生産が高水準を維持するなど、産業構造の高度化は着実に進展していると思われます。今後景気は緩やかに減速するとみられるものの、ITセクターの発展に加え、政府の政策対応余地もあることから、大きく下振れはしないと考えられます。

ここもチェック! 2018年6月12日 中国株式市場の振り返りと見通し（2018年5月）
2018年6月 7日 『越境EC』でも発揮される中国の消費パワー

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。